

仲間と困難に立ち向かう『アドベンチャーキャンプ』

【メインキャンプ（2nd キャンプ）】8月8日（木）～12日（月）4泊5日

【目的】 年3回のキャンプを通して、仲間とともに困難を体験し、話し合ったり支え合ったりすることで、主体的・自主的・前向きに「生き抜く力」（竹のようにしなやかな心）を育む。また、本事業を実施することで、困難に直面した時に主体的・自主的・前向きに「生き抜く力」（しなやかな心）を育むプログラムを開発する。

【参加者】 小学生5年生～中学生1年生 18名（男性11名 女性7名）

【日程】 1日目 山口徳地自然の家集合、マウンテンバイク練習、テント設営、野外炊飯、行程確認、目標設定、移動準備

2日目 テント撤収、野外炊飯→仁保（野外炊飯）→鳴滝園（山口市小鯖）、テント設営、野外炊飯

3日目 テント撤収、朝食→沢登り（鳴滝）→小鯖地区会館（お弁当）→千防川公園（山口市秋穂）、テント設営、野外炊飯

4日目 テント撤収、野外炊飯→登山（大海山）→千防川公園（昼食）→美濃ヶ浜（山口市秋穂）、テント設営、バーベキュー

5日目 テント撤収、朝食、SUP体験、昼食、ふり返り、感想発表会 ※→（マウンテンバイクでの移動）

1日目 再会、目標設定



久しぶりに集まった仲間と、マウンテンバイクの練習をし、暑さを改めて実感した。その後、テント設営と野外炊飯の復習をした。手際が良くなっており、短時間で夜の活動に移れた。夜には、明日からの全行程を確認し、みんなで目標や手に入れた力などを伝え合った。

2日目 マウンテンバイクでの移動



移動開始初日。朝7時に出発し、全日程で一番長い移動距離となる36kmをマウンテンバイクで移動した。山越えやアスファルトからの照り返しなど、さまざまな困難に立ち向かい、全員が無事目的地に到着した。到着後もテント設営、野外炊飯を仲間とともにやった。夜は小鯖にある施設「鳴滝園」の方に部屋をお貸し頂き、涼みながらふり返りをした。

3日目 沢登り



3日目は、野外炊飯で朝食をとった後、近くの「鳴滝」まで歩いていき、沢登りにチャレンジした。水の流が速い場所やすべりやすく狭い岩場を、手を取り合いながら登っていった。午後からは、再びマウンテンバイクで24km移動し、目的地である千防川砂防公園キャンプ場に到着した。

4日目 登山、瀬戸内海へ



前日までの移動やテント設営、野外炊飯などで体力と精神に限界が見え始めた仲間が出てきた。早朝の登山前には、3人が体調不良から一時断念することにした。周りの仲間は声をかけたり、かけるべきか迷ったり、頑張ってもらいたいと願ったり、さまざまな心の動きを体験していた。その後、3人はチャレンジすることを選択し、全員が頂上にたどり着いた。下山後、再びマウンテンバイクで7km移動し、ついに最終目的地である美濃ヶ浜で、瀬戸内海にたどり着くことができた。

5日目 SUP体験、一時解散



最終日は、ゴール地であった瀬戸内海でSUPを体験した。体験前に、パディを組めていない子に気づかず、一人落ち込む子がいた。落ち込んで海へ移動しなかったその子も、周りの仲間からの声かけで、気持ちを切り替えて一緒に海へ向かった。すべての活動を終えた後、班ごとに今回のキャンプをふり返った。最後は、みんなの前でそれぞれの感想を発表し、次回の再会と日常での目標への意気込みを確認し合って、解散した。

【参加者の声】「自分らしさがこのキャンプでわかった。協力、助け合いの大切さがわかった」「キャンプで仲間と一緒に助け合ってがんばれば困難も乗り越えられるとわかった」「みんながしっかりコントロールし、体調が悪くても心配してたのがすごい」といった感想があった。

【成果】 アンケートに仲間と支え合ったり、話し合ったりすることの良さを感じている記述が多くあり、目標に沿ったプログラムとなった。

【課題】 移動しての野外炊飯、テント設営、シャワーなど、子どもが続けて行うには負荷が重すぎるものとなった。プレキャンプでも、移動してのプログラムを実践しておくことを検討する必要がある。